

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 7 日現在

機関番号：43605

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26590199

研究課題名(和文) 帝国日本の「外地」中等教員ネットワーク

研究課題名(英文) Empire Japan's "foreign" Secondary teacher network

研究代表者

山本 一生 (Yamamoto, Issei)

上田女子短期大学・その他部局等・講師

研究者番号：70722578

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では『広島高等師範学校一覧』に記載された卒業生の勤務先をデータベース化し、明治期から日中戦争勃発前にかけての広島高等師範学校出身者の「外地」への赴任を通して教員ネットワークの形成過程を分析した。この作業を通して「内地」と「外地」を地域横断的に捉える視座を提示することができた。こうして、帝国日本の勢力圏内において広島高師の卒業生ネットワークが形成されていく状況を具体的に明らかにすることができた。本研究の知見によって、これまで地域史としてそれぞれの研究分野で完結しがちであった研究状況に風穴を開けることができたと考える。

研究成果の概要(英文)：In this research, we have created a database of graduates' work sites listed in the "Hiroshima High Normal School List" and analyzed the process created a faculty network through transfer from the Meiji Era to the Japan - China War focusing on the "foreign land" of Hiroshima High Normal School graduates. Through this work, I was able to present a viewpoint to grasp the "inside" and "outside" across the region. In this way, I was able to concretely clarify the situation where the graduates network of Hiroshima will be formed within the influential territory of Empire Japan. Based on the findings of this research, we believe that we were able to open up the wind in the research situation which had tended to be completed in each research field as regional history.

研究分野：教育学

キーワード：教育史 教員史 広島高等師範学校 教員ネットワーク 帝国日本 植民地教育史

1. 研究開始当初の背景

近代学校体系を整備していく過程と並行して、近代日本はアジアに「外地」を広げ「帝国化」していった。1900年の第三次小学校令は初等教育の標準化を企図したが、結果的に中等教育での入試激化と中等教育拡充の圧力が高まった。その波は「外地」にも広がり、「外地」における中等教育機関の設立へとつながる。しかし植民地は本国と法的に切り離された存在であったため、先行研究では日本教育史を「内地」と「外地」という区分を前提とし、植民地それぞれの相互関係を問題にせず研究が行われてきた。ここに先行研究の問題点がある。

地域ごとの研究が没交渉となっている研究状況を解決する理論的支柱として応募者が注目したのが、アンドレ・シュミットの研究である。彼は朝鮮史研究の立場から本国と植民地とが別々に検討されてきた研究状況を批判し、「本国-植民地」として両者を一体として捉えることを主張した(“Colonialism and the ‘Korea Problem’ in the Historiography of Modern Japan” The Journal of Asian Studies 59, no4, 2000.11)。

既に『青島の近代学校 教員ネットワークの連続/断絶』(皓星社、2012年)においてこの視座から山東省青島を定点的に観測し、広島高等師範学校から青島を経て他の「外地」に転出する教員について考察した。しかし一都市に限定したため中等教員ネットワークの一部しか明らかにできていない。そこで本研究では帝国日本の中等教員ネットワークの整備過程を解明することによって、「本国-植民地」関係の全体像に迫る。

2. 研究の目的

帝国日本の植民地は本国と法的に切り離された存在であったため、従来の日本教育史研究では「内地」と「外地」という区分を前提とし、植民地それぞれの相互関係を問題にせず研究が行われてきた。

アンドレ・シュミットは「本国-植民地」として両者を一体として捉えることを主張したが、教育史研究では未だにシュミットの研究を発展しているとは言いがたい。

そこで本研究では、教員養成 教員の移動という課題から、帝国日本の中等教員ネットワークの整備過程を解明することによって、「本国-植民地」関係の全体像に迫ること、こうした研究状況に風穴を開ける。

3. 研究の方法

第一に帝国日本全体の中等教員がどのように養成されたのか、教員養成のレベルで研究する。「外地」では初等教員の養成を行った地域はあったが、中等教員は戦時下の一定期を除いてほぼ「内地」からの供給に頼っていた。しかも帝国日本では「外地」教員となるための特別なカリキュラムがなかった。そ

れがなぜだったのか、その原因を探る。

第二に、教員移動の構造を明らかにする。「内地 外地」という一方通行だけでなく、「外地 外地」ではどのような教員供給のルートがあり、その背後には一体どのような力学が働いたのか。「外地」は文部省の管轄下になかったため、様々なアクターが教員供給に関わったと考えられる。さらには戦後の教員の状況まで視野に入れる。

4. 研究成果

公立「近代学校」の特徴の一つとして、教師は教育職員として資格を有し、かつ定期的に勤務校を異動することにある。では、帝国日本の版図拡大と教員ネットワーク形成との関係はいかなるものであったのか。そこで本研究は、広島高等師範学校(以下広島高師と略記する)の『広島高等師範学校一覧』(以下単に『学校一覧』とする)を用いて広島高等師範学校出身者による「外地」中等教員ネットワークの形成過程を分析した。広島高師を研究対象とした理由は、広島高師が新設校を中心に学閥を形成していったという先行研究の指摘を踏まえたためである。そこで、教員の移動というネットワーク形成を軸に「内地」と「外地」を一体として捉えることで、帝国日本の版図拡大と「内地」の教員養成校による新規教員市場の開拓との関係を考察した。

初年度は、共同研究打ち合わせと研究データの作成を中心に実施した。前者について、2014年4月12日に明治大学駿河台キャンパスに於いて初回打ち合わせを行い、以下の日程で打ち合わせを行った。

5月8日(明治大学)6月5日(東京大学教育学部)7月24日(東京大学教育学部)8月8日(東京大学教育学部)8月18日(東京大学教育学部)9月1日(明治大学)9月23日(東京大学教育学部)10月23日(日本大学文理学部)11月10日(東京大学教育学部)11月20日(東京大学教育学部)12月12日(東京大学教育学部)2015年1月23日(東京大学教育学部)2月26日(東京大学教育学部)

以上の打ち合わせの結果、広島高等師範学校に焦点を当て、帝国日本の中等教員ネットワーク形成を検討することとなった。さらに、山東省青島を対象に公立学校教員が日本の敗戦後に中華民国南京国民政府にどのように接収されたのか検討した。その成果は山本一生「中華民国期山東省青島における公立学校教員 - 「連続服務教員」に着目して - 」「史学雑誌」(第123編第11号、2014年)として発表した。

研究データの作成に関しては、収集した『広島高等師範学校学校一覧』の卒業生名簿(1906年から37年)をデータ化した。この作業により、帝国日本の「外地」に転出した卒業生の具体的な足跡を、学部ごとや地域ごとに追うことが出来た。その結果、歴史地理

学部と博物学部が「外地」への転出率が高く、人数としては朝鮮が最多であったことが判明した。

二年目は、初年度に引き続き共同研究打ち合わせと資料収集を行った。共同研究打ち合わせの日程は以下の通りである。

2015年4月10日 17:00~19:00、2015年5月25日 18:40~21:00、2015年6月19日 18:40~21:00、2015年7月24日 18:40~21:00、2015年8月7日 19:00~21:00、2015年8月23日 19:00~21:00、2015年10月16日 19:00~21:00、2015年11月27日 19:00~21:00、2015年12月23日 19:00~21:00、2016年1月25日 15:00~19:00、2016年3月4日 13:00~17:00、以上全て東京大学本郷キャンパスにて会合を行った。

また、以下の日程で調査出張を行った。2015年5月3日~5月4日：東京都五日市、南方占領地に於ける戦時下プロパガンダに関わった人物の遺族宅を訪問し、関係資料を収拾した。2015年9月6日~9月13日：中国山東省青島、中国海洋大学において新聞伝播及び文学院の修斌教授を訪問し、近年の中国における大学状況について情報の提供を受けた。また同期中に青島市档案馆にて戦時下から国共内戦期の教員名簿を調査した。2015年9月13日~17日：香港、香港中文大学において余國良中国文化研究所助理所長を、香港大学において李培徳教授を、香港理工大学において李凱琳導師を訪問し、中国および香港での中国史研究事情に関して情報の提供を受けた。

最終年度は以下の研究活動を行った。

2016年度第一回研究会

2016年8月7日(日)~9日(火)

会場：

上田女子短期大学(8月8日)

〒386-1214 長野県上田市下之郷乙 620

菅平高原ホテル白樺(8月9日)

〒386-2204 長野県 上田市菅平高原 1223

プログラム

上田女子短期大学(8月8日)

9:00-10:00 角能(東京大学人文社会系研究科特任研究員)

：広島高師の外地教員について計量分析

10:00-11:00 山下達也(明治大学文学部准教授)

：植民地朝鮮における広島高等師範学校卒業生の展開

11:00-12:30 総合討論

菅平高原ホテル白樺(8月9日)

9:00-10:00 山本一生(上田女子短期大学専任講師)

：広島高等師範学校卒業生の「外地」転出動向

10:00-11:00 松岡昌和(秀明大学非常勤講師)

：幣原坦の『外地』論

11:00-12:00 総合討論

教育史学会第60回大会

コロキウム「「外地」の中等教員ネットワーク - 広島高等師範学校を中心に - 」

会場：横浜国立大学

10月2日

「広島高等師範学校卒業生の「外地」転出動向」(山本一生)

「戦前期中等教員の需要と供給 「内地」と「外地」との関係をもとに読み解くか」(杉森知也：日本大学、紙面報告)

「広島高等師範学校卒業生の外地教員への異動実態 内地から外地への移動の社会背景の考察」(角能：東京大学)

「「外地」中等教員ネットワークと広島高等師範学校 朝鮮における師範教育界の事例に着目して」(山下達也：明治大学)

「幣原坦の「外地論」」(松岡昌和：秀明大学・非)

「広島高等師範と新教育運動」槻木瑞生(同朋大学名誉教授)

2016年12月19日

2016年度第二回研究会

参加者：槻木瑞生、山下達也、松岡昌和、角能、山本一生

明治大学駿河台キャンパス研究棟4階第7会議室 14:00-17:00

科研費報告書の発刊に向けての打ち合わせ

2017年1月23日

2016年度第三回研究会

参加者：槻木瑞生、山下達也、松岡昌和、角能、山本一生

東京大学教育学部基礎教育学コース会議室 15:00-17:00

科研費報告書原稿の読み合わせ

以上の各年度の研究を経て、本研究では帝国日本の版図拡大と教員ネットワーク形成との関係はいかなるものであったのか検討した。分析対象は、第一に「外地」に赴任した広島高等師範学校出身者、第二に満洲国の中等教員に関する政策、第三に広島高等師範学校校長などを勤めた幣原坦、第四に中国大陸と日本の「新教育」との関係である。

本研究では『学校一覧』に記載された卒業生の勤務先をデータベース化し、明治期から日中戦争勃発前にかけての広島高等師範学校出身者の「外地」への赴任を通して教員ネットワークの形成過程を分析した。この作業を通して「内地」と「外地」を地域横断的に捉える視座を提示することができた。こうして、帝国日本の勢力圏内において広島高師の卒業生ネットワークが形成されていく状況を具体的に明らかにすることができた。本科研の知見によって、これまで地域史としてそれぞれの研究分野で完結しがちであった研

究状況に風穴を開けることができたと考え
る。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文](計3件)

山本一生、生活指導における保育者の役割 -
自由学園北京生活学校を事例に -、上田女子
短期大学紀要、査読なし、40号、2017、51-60

山本一生、私立青島学院の生徒像 商業学校
(一九二一 四五)『学籍簿』の基礎的考察
、アジア教育史研究、査読あり、第24号、
2015、45-68

山本一生、中華民国期山東省青島における公
立学校教員 - 「連続服務教員」に着目して、
史学雑誌、査読あり、123 編 11 号、2015、
44-63

[学会発表](計3件)

広島高等師範学校卒業生の「外地」転出
動向、教育史学会第60回大会コロキウム、
016

私立青島学院の学科課程における商業教
育の意義と編成方法 - 「日支共学」理念
の実施に注目して -、日本植民地教育史
研究会第18回大会、2015

「外地」における日本側中等商業学校卒
業生の進路 私立青島学院商業学校を中
心に、アジア教育史学会第23回大会、
2014

[図書](計1件)

貴志俊彦、白山真理編 山本一生他、国書刊
行会、京都大学人文科学研究所蔵 華北交
通写真資料集成、2016、780

[その他]

上田女子短期大学リポジトリ
研究成果報告書、科研費平成26年度~28年
度

https://uedawjc.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=189&pn=1&count=20&order=7&lang=japanese&page_id=38&block_id=28

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山本一生 (Yamamoto, Issei)

上田女子短期大学・幼児教育学科・講師

研究者番号：70722578

(2) 研究分担者

山下 達也 (Yamashita, Tatuya)

明治大学・文学部・准教授

研究者番号：32682

(4) 研究協力者

角能 (Kado, Yoku)

東京大学人文社会系研究科特任研究員

杉森知也 (Sugimori, Tomoya)

日本大学文理学部教授

松岡昌和 (Matuoka, Masakazu)

一橋大学大学院言語社会研究科特別研究員

槻木瑞生 (Tukinoki, Mizuo)

同朋大学名誉教授